

◆特集◆ 水害から地域を守る ～悪土川流域自治会自主防災組織連絡協議会の取組～



令和5年7月の大雨後の松長布地区
(北羽新報社提供)

この地域は小・中学校やスーパー、病院が近くにあり、郡市内でも居住環境に恵まれています。平成10年からの28年間で大小の違いはありますが、14回の水害に遭っています。単純計算で2年に1回の割合で災害に遭っていることになりました。特に、松長布や大瀬地区が多くなっています。

これまでの地域の防災に対する活動が認められ、悪土川流域自治会自主防災組織連絡協議会が県優良自主防災組織表彰を受賞されました。

今回は、能代市榊地区自治会連合会及び悪土川流域自治会自主防災組織連絡協議会の会長である加藤実さんにお話を伺いました。

問 お住まいの地域の組織のことを教えてください。

加藤さん 私が暮らす地域の榊地区自治会連合会は20自治会、約1300の世帯があります。また、悪土川流域自治会自主防災組織連絡協議会は8年前に設立した自主防災組織で、加入している自治会は8自治会、約700世帯あります。

問 これまで行ってきた要望の内容を教えてください。

加藤さん 悪土川の河道掘削を早期に進めてほしいことや、早川水門のポンプを2倍にすること、被災した住宅の防水壁対策の現状調査などに関して要望を行ってきました。水害への課題を早急に解決し、一日も早く住民が安心・安全で平穏な暮らしができるように要望しています。



県優良自主防災組織表彰受賞の様子
(北羽新報社提供)

また、国、県などの関係機関でつくる米代川圏域流域治水協議会での悪土川に関する協議に、住民代表の参加を求める要望をしたほか、昨年10月には、悪土川治水対策に関する緊急要望を県知事に行いました。

問 要望によって変化はありましたか。

加藤さん 国、県、市に幾度となく要望活動を行ってきた結果、水害への対策が取られ、河道掘削の実施や水門のポンプアップが進みました。

令和5年の未曾有の被害時に115件あった床上浸水が、昨年は17件で収まりました。今年は水害があったとしても、床上まではつかないと考えています。

問 松長布自治会長としての役割もあると思いますが、どのように活動されていますか。

加藤さん 昨年10月に行った松長布自治会の役員会では、後期組長を紹介した後、今後の活動について議論しました。「生涯水害の不安に悩まされるのはたくさん」、「水害防止に即効が見込まれる箇所から最優先に行政が実施を」などの活発な意見が交わされ、会員同士が助け合い、団結して取り組むことで一致しました。

自治会はいつも楽しく、自治会をまとめる役員会では、一人でも多く参加できるように工夫しています。

問 自主防災組織の在り方をどのように考えていますか。

加藤さん 災害があれば、まず動かなければなりません。万が一に備え、きちんと動ける状況を判断できる組織として自主防災組織があり、普段から災害対応に向けた活動をしていかなないと地域は守れないと考えています。

●取材を終えて

お忙しい中、インタビューを引き受けてくださった加藤会長ありがとうございました。改めて、悪土川を含めた流域の水の問題に関して、引き続き議会としても取り組まなければならぬと思いを強くしました。

取材：菊地時子、畠 貞一郎